

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(だい 1 4 期 だい 2 年 だい 1 回 だい 2 日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2023(令和5)年5月21日(日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 17人

あぶどうる じやりる、いとウ ユリカ キヤレン、どうまやす ありゃん、
のだ ゆわリー、ひりすとぼ がぶリエラ、ブリツイナ タチヤナ、ペレニラ
らひる さんけーた、まい あさえる、むはまど あいまん ありふ、やん ついー
ユデク マルチン、尹 智夏、李 歆歆、李 晨、刘 英杰、刘 晨、
れいばーまん ケビン

(2) 事務局

さとう かちょう すがはら たんとうかちょう みたむら かちょうほさ まつながね かちょうほさ いがらし
職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 1人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【**全体会**】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2023年度第1回第2日を開催する。今日はグエンさん、バさん、林さん、ロティニーさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局三田村課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。まずは、代表者の欠員と補充についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

劉英杰委員「2点、確認したい。1点目に、現状で代表者は何人になったのか。2点目に、代表者会議に必要な最低人数は何人か。」

事務局高橋専門調査員「まず、現状の代表者の人数は21人だ。次に、最低人数についてだが、条例では26人以内となっているので、最低人数に関する決まりはないが、会議が成立するためには代表者の半数の出席が必要だ。何かを決めるときの多数決に関しては、出席した代表者の過半数となっている。」

劉英杰委員「ちなみに、各部会の人数のバランスはどうなっているか。」

事務局高橋専門調査員「安心生活部会が10人、情報・社会部会が11人だ。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、もう2年目ということで補充しないという案になっているが、賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)それでは、補充はしないということで決定した。次は、部会審議だ。全体会の再開は16時25分からということでお願いします。」

【**安心生活部会**】

ヒリストバ部会長「それでは、部会を始めたい。まずは、事務局から今日の部会審議について説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明)

ヒリストバ部会長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入りたい。事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3-1、3-2に基づき説明)

ヒリストバ部会長「何か質問はあるか。(なし) それでは、前回の宿題ではないが、各自で調べてきて共有したいことがあれば報告をお願いする。」

楊委員「私が調べたというよりは、事務局に問い合わせをした。内容は、産後ケアやヘルパー事業を利用するときに言葉が通じないために断るケースがあるかということと、私たちが多言語でパンフレットのようなものを作成したら現場で活用されるニーズはあるかというものだ。結果は、資料にあるとおり、とくにニーズはないということだった。現在、サービスを利用しているのは片方の親が日本人の人や本人がある程度日本語が話せる人が多いので、まったく日本語が話せない人の利用はほとんどないそうだ。ただし、サービス範囲外のことを頼まれて困るということがあるそうなので、外国人向けに利用できるサービスの範囲がわかる資料を作ったらお互いにスムーズにいくかなと思った。」

野田委員「言葉の問題がないと思っていてもちゃんと理解できていないこともあると思うので、やはり多言語の資料があるとよいと思った。私は自分の国のことも調べたが、タイでは産後支援制度はないようだ。自分の親に頼むことが多いため、行政のサポートはないようだ。ひとり親支援に関しては、行政がいろいろなサポートをしていた。日本と違うのは、未成年の出産がタイでは社会問題になっている。」

ヒリストバ部会長「次に、欠席のロティーニ委員からいただいた内容について共有したい。ひとり親家庭への支援についてだが、強調したいこととしてはタイムリーに情報を伝えることが必要だということだそう。たとえば、高校や大学に進学するときに利用できる低金利のローンがあるが、子どもがまだ小学生なので今知っても早すぎる。情報を知らせるタイミングも重要だということだ。具体的な支援の方法については、まだアイデアはないが、区役所で登録するタイミングで精神的なフォローアップのサービスを受けて、希望に応じて支援するというのがよいそうだ。ほかには、ボランティアサークルのようなものを募集して、そこでサポートをすればメンタルヘルスケアにもつながるのではないかとのことだった。何かコメントなどはあるか。(なし) 私もロティーニさんの意見に同感で、ボランティアを募集してそこで悩み相談などができれば、メンタルヘルスケアにもつながって一石二鳥だと思う。事務局に聞きたいのだが、そうしたアイデアの提言はどうか。」

事務局五十嵐職員「たとえば、そうした提言が出たときにみなさんはボランティアに
なってくれるか。みなさん、仕事などで忙しいと思うが、提言をするからには
自分も積極的に関わりますというのがないとどうかと思う。」

楊委員「先ほどのアイディアについてだが、メンタルに悩みがある場合の相談相手が
ボランティアということか。」

ヒリストバ部会長「そうだ。」

楊委員「結構シビアなことなので、専門性を持っていないと難しいのではない
か。」

刘英杰委員「楊さんが言うように、相談した相手が詳しくないと必要な支援ができ
ない可能性が高い。逆にトラブルになることもあるかもしれない。それより
は、情報提供にフォーカスした方がよいと思う。」

ドウマヤス委員「提言にするときには、どこが担当局になるかも意識して、提言でき
るかどうかを考えた方がよい。」

ムハマド委員「私も精神的なサポートは専門的な知識がないとできないと思うので、
情報提供にフォーカスした方がよいと思う。」

刘英杰委員「情報提供の場、手段に関してだが、2015年度に多文化共生
ラウンジという提言が出ていて、2021年度にも再提言している。区役所の
窓口だと、それぞれ担当が違うので、情報を一元的にするのは難しいと思う。
ラウンジのような場を通して解決できるのではないかとと思う。」

ヒリストバ部会長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、次のテーマの
メンタルヘルスケアに移りたい。何か意見はあるか。」

マイ委員「ほかのテーマでも同じだと思うが、資料の多言語化が必要だと思っていて、
私たちが翻訳したりしてはどうか。翻訳したものをウェルカムセットに入れ
たらどうだろうか。」

野田委員「ウェルカムセットはあらかじめ資料が組まれていると思うのだが、たと
えば韓国人が来たから韓国語を入れるといった対応はまではできないと思う。
情報コーナーに置いておいて、関心のある人が自分で持っていけばよいのでは
ないか。」

ヒリストバ部会長「メンタルヘルスケアについて、ほかに何かあるか。（なし）
それでは、最後に産後支援制度に移りたい。何か意見はあるか。」

楊委員「もちろん、資料の多言語化はニーズがあるが、もう1つ、大事だと思うのは
すでにある制度の活用だ。産後ケアとか、ヘルパー派遣の情報を正しい

タイミシングで正しいところに置いておくことが大事かと思う。助産院とか、小児科とか、産婦人科とか、そういったところにパンフレットを置くことが多言語化よりも前に必要かと思う。」

ドゥマヤス委員「私も同じ考え方で、せっかくいろいろな制度や支援があるのにあまり知られていない。提言では制度の周知に力を入れるべきだと思う。」

劉英杰委員「同じような意見だが、まずは存在自体が知られることが大前提だ。

自分のケースだが、日本で母子健康手帳をもらいに行ったとき、担当者はとても親切にいろいろな資料を渡してくれ、これからの大まかな流れも説明してくれた。その中で、産前・産後ケアの話もあった。これは事実だ。母子健康手帳は小学校にあがるまで長く使うものなので、必要な情報を母子健康手帳に載せられるとよいのではないか。」

楊委員「私が経験したのは、自分の文化と日本の文化の違いが多くて、当初は制度を利用するかどうかが躊躇した。たとえば、台湾では赤ちゃんにミルクをあげてもよいという文化なのだが、日本だと母乳が一番で、なるべく母乳をあげましようという文化が強い印象がある。もし、サービスを利用すると、母乳を強制されるのかなという不安があって、最初は利用するかどうかが躊躇した。あと、役立つ情報としては、どこで育児用品が買えるかとか、どこでほかのお母さんたちと交流できるかなども知れるとよい。私の場合は、ヘルパーさんがとても親切に教えてくれた。それと、文字が多いと読めなくなるので、絵が多く使われているとよいと思う。」

事務局三田村課長補佐「どこで育児用品が買えるかや、どこにお母さんたちが集まるかを知りたいというのはとてもよくわかるが、そのときに外国人同士の場所が欲しいのか、それとも日本人と一緒にでもよいのか。」

楊委員「私の経験では、国は関係なく、近所のお母さんたちと交流したいというニーズが一番多かった。」

劉英杰委員「かわさき子育てアプリというものがあり、いろいろな情報が得られるのだが、おむつを替えたり、哺乳ができたりする場所などの情報があるとより便利だと思う。」

ヒリストバ部会長「そろそろ時間なので、振り返りはここまでとしたい。次回は提言候補の絞り込みになる。事務局から説明をお願いする。」

事務局五十嵐職員「正式に決定するのは次回の会議になるが、今の時点でみなさんがどのテーマに関心があるのか知りたい。」

ヒリストバ部会長「メンタルヘルスケアについて、提言したいと思う人は手を挙げてください。（ 0人 ）産後支援制度について、提言したいと思う人は手を挙げてください。（ 7人 ）外国籍のひとり親支援について、提言したいと思う人は手を挙げてください。（ 4人 ）みなさんの関心がわかった。今回はまだ仮なので、正式には6月の会議で決定する。資料のリクエストについてだが、産後ケアやヘルパーの事業について、どこでどうやって情報を提供しているのか知りたい。ひとり親についても、区役所でどのような情報をもらっているのかを知りたい。」

ムハマド委員「母子健康手帳を見たことがないので、現物を見てみたい。」

劉英杰委員「多文化共生ラウンジについて、公開できる範囲で構わないので現時点での市の取組状況を知りたい。」

ヒリストバ部会長「それでは、時間になったので今日の部会審議はここまでとする。」

【情報・社会部会】

イトウ部会長「それでは、部会を始める。今日の審議テーマは高齢者の介護についてだ。まずは、今日の部会審議について、事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明）

イトウ部会長「何か質問はあるか。（ なし ）では、続いて事務局から資料の説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-1、4-2に基づき説明）

イトウ部会長「何か質問はあるか。（ なし ）では、私からよいか。EPAの外国人介護人材とあるが、この人たちの在留資格の延長はできるのか。」

事務局高橋専門調査員「在留資格の更新は可能だ。」

イトウ部会長「ほかに何かあるか。」

ブリツィナ委員「私は35歳になったときに、ちょうど誕生日の直前に、年金についての案内が届いたが、介護保険についてもたとえば40歳になるタイミングで何か案内はあるか。会社員だと給料から自動的に天引きされるが、案内はないようだ。」

事務局高橋専門調査員「把握していないので、調べておく。」

アブドゥル委員「補足だが、EPAの介護士は4年目に国家試験に合格すると在留資格の更新に制限がなくなる。試験に合格できなかった場合は、1度帰国する

か特定技能などのほかの在留資格に変更しなければならない。」

尹委員「日本に来て、働きながら勉強をして、4年で国家試験に合格するのはすごいことだ。」

ユデク委員「試験は日本語か。」

アブドゥル委員「そうだ。」

イトウ部会長「ほかに何か質問はあるか。（なし）では、意見に移りたいが、まず私からよいか。今回、私も介護保険制度についていろいろと調べてみたのだが、資料はたくさんあるがすごく複雑でわかりにくかった。フローチャートのようなものがあるとよいと感じた。それと、痛いとか困っているとかも本人の意思がわかりづらいというのもあるので、たとえば1から5までの数字で表現するみたいな言葉が通じなくてもコミュニケーションがとれるものがあるとよいと思った。」

尹委員「日本人の高齢者でも耳が聞こえなかったり、目が見えなかったりということもあるので、日本人と外国人をわけずに考える必要もあるのではないか。」

ペレーラ委員長「日本人の場合でも認知症などで言葉の理解力が下がってしまうことはある。介護分野で働いている人に〈やさしい日本語〉や多文化理解を深めてもらうとよいのではないか。」

李敏副委員長「言葉の部分で、川崎市では医療通訳の派遣制度があると思うが、それを介護にも活用できたらよいと思う。」

レイバーマン委員「私も、ぜひ〈やさしい日本語〉の活用は進めてもらいたいと思う。この前、図書館に行ったら3月に改訂された〈やさしい日本語〉のガイドラインがあったので読んでみたのだが、たしかにこういった書き方であれば外国人にとってもわかりやすいということがたくさん載っていた。それと、「こんにちは介護保険です」の多言語版があることはとても素晴らしいと思うが、今、必要なのは〈やさしい日本語〉版ではないかと思う。」

刘晨委員「私も中国語版を見てみたが、直訳でよくわからなかった。たとえば、介護保険が義務であることなども書いた方がよいと思った。それと、私の友人に聞いたところ、介護保険を知っている人は1人もいなかった。具体的にどうすればよいかは難しいところだが、制度の周知が必要だと思う。」

李晨委員「みなさんが言っているとおり、制度の周知がまず第一歩かと思う。たとえば、ウェルカムセットの中に多言語版を入れたりするとよいのではないか。」

ブリツィナ委員「私はウェルカムセットで一律に配るのはあまり効率的ではないと

思う。保険料を納めるようになる40歳になるタイミングで案内を出すのがよいと思う。」

尹委員「みなさん介護を遠い存在だと思っているかもしれないが、若くても急に認知症になったりすることはある。文字だけだとやはりわかりにくいので、イラストなどを使って簡単にわかるようなものがあるとよい。」

アブドゥル委員「どうやって多くの人に情報を伝えるかだが、私は市政だよりをよく読んでいるのだが、子育てとか、介護とか、地域のこととか、イベントのこととかいろいろな情報が載っている。できれば、そこに外国人向けの情報があるとよいと思う。」

尹委員「私も昨年まで会社の社員だったが、40歳になったときに給料から天引きされるようになったが何も案内はなかった。」

イトウ部会長「そろそろ時間になったので、残りは振り返りの時間としたい。提言の候補に残したいものなどを挙げてもらえればと思う。」

李勲副委員長「情報についてはあまり議論が深まらなかったが、たとえば介護保険制度の周知を提言にするなら、それは広い意味での情報なのだと思う。情報について漠然と提言するよりも、テーマを絞って具体的な提言にする方が意味があると思う。」

ペレーラ委員長「私は前回、提言の候補として区役所でのタブレット端末の活用を挙げた。」

李晨委員「私もメルマガの活用を提案した。」

レイバーマン委員「私はウェルカムセットの充実を候補に挙げたい。」

ペレーラ委員長「日本語学習の場について、学習の場を増やそうという話になっていると思うが、各区で昼も夜もやっている。これ以上増やしても生徒がいるのか。場を増やすよりも内容の質を上げる方がよいのではないか。それと、オープン会議では教える側の待遇面の課題についての意見もあった。」

事務局 高橋専門調査員「これは私の考えだが、やはり市民館で活動しているボランティア中心の教室に対していろいろと変化を求めるとは違うと思う。教室の実態と合っていない。質の高い学習の提供や待遇面のことを考えるなら、それは既存の取組とは別に新たな取組として考える必要があると思う。たとえば、待遇面の改善にしても、単純に市が予算化するのではなく、学習者が負担するという発想もあってよいはずだ。」

ペレーラ委員長「たしかに、よいサービスを受けたいならそれなりのお金を払うべき

だと思^{おも}う。」

イトウ部会長「ほかに何^{なに}かあるか。（なし）それでは、次回^{じかい}の会議^{かいぎ}について事務局^{じむきょく}から説明^{せつめい}をお願いする。」

事務局^{じむきょく}高橋^{たかはし}専門^{せんもん}調査^{ちさう}員^{いん}「7月^{がつ}、8月^{がつ}は会議^{かいぎ}がないので、次回^{じかい}は9月^{がつ}になる。11月^{がつ}のオープン^{おーぷん}会議^{かいぎ}に向けて、具体的^{ぐたいてき}に提言^{ていげん}の候補^{こうほ}を絞^{しぼ}っていくことになる。いろいろと意見^{いけん}は出^でているが、住民^{じゅうみん}投票^{とうひょう}と高齢^{こうれい}者の介護^{かいご}についてはまだ私^{わたし}の中^{なか}で何をしたいのかが掴^{つか}めていないので、もう少し^{すこ}みなさんが考^{かんが}えていることを教^{おし}えて欲^ほしい。」

李晨^{りしん}委員^{いいん}「私^{わたし}は介護^{かいご}については高齢^{こうれい}者^{しゃ}だけではなく、40歳^{さい}以上^{いじょう}の人^{ひと}に焦点^{しやうてん}を当てたいと思^{おも}っている。」

ユデク委員^{ゆでくいいん}「私^{わたし}は介護^{かいご}の研修^{けんしゅう}に異文化^{いぶん}理解^{かりかい}を入^いれるのがよいと思^{おも}う。」

ブリツィナ委員^{ぶりついないいん}「介護^{かいご}については、制度^{せいど}の周知^{しゅうち}と研修^{けんしゅう}の2つ^{ふた}を提言^{ていげん}にしてもよいのではないか。」

ペレーラ委員^{ぺれーらいいいん}長^{ちやう}「住民^{じゅうみん}投票^{とうひょう}に関しては、資料^{しりよう}の多言語^{たげんご}化^かを提言^{ていげん}にしたい。」

イトウ部会長^{いとうぶかいちやう}「それでは、時間^{じかん}になったので今日^{きよう}の部会^{ぶかい}審議^{しんぎ}はここまでとする。」

【全体会^{ぜんたいかい}】

ペレーラ委員^{ぺれーらいいいん}長^{ちやう}「それでは、全体会^{ぜんたいかい}を再開^{さいかい}する。まずは部会^{ぶかい}報告^{ほうこく}だ。情報^{じょうほう}・社会^{しゃかい}部会^{ぶかい}から報告^{ほうこく}をお願いする。」

イトウ部会長^{いとうぶかいちやう}「情報^{じょうほう}・社会^{しゃかい}部会^{ぶかい}では、今日^{きよう}は高齢^{こうれい}者の介護^{かいご}について審議^{しんぎ}した。主^{おも}な意見^{いけん}としては、介護^{かいご}サービスを提供^{ていきやう}する人^{ひと}に〈やさしい日本語^{にほんご}〉の研修^{けんしゅう}をしたらどうかという意見^{いけん}が出^でた。ほかには、介護^{かいご}保険^{ほけん}制度^{せいど}の周知^{しゅうち}が必要^{ひつよう}との意見^{いけん}も出^でた。高齢^{こうれい}者の介護^{かいご}のあと^{あと}は、振り返^{かえ}りをした。主^{おも}な意見^{いけん}としては、日本語^{にほんご}学習^{がくしゅう}の機会^{きかい}を増^ふやす、区役所^{くやくしょ}でのタブレッ^{たぶれ}ット通訳^{つうやく}の活用^{かつよう}、メルマガ^{めるまが}の活用^{かつよう}、ウェルカムセ^{うゑるかむせ}ットの内容^{ないよう}の充実^{じゅうじつ}、住民^{じゅうみん}投票^{とうひょう}の際^{さい}の情報^{じょうほう}の多言語^{たげんご}化^かなどが出^でた。」

ペレーラ委員^{ぺれーらいいいん}長^{ちやう}「何^{なに}か質問^{しつもん}はあるか。（なし）それでは、続^{つづ}いて安心^{あんしん}生活^{せいかつ}部会^{ぶかい}の報告^{ほうこく}をお願いする。」

ヒリストバ部会長^{ひりすとばぶかいちやう}「今日^{きよう}は3つのテーマ^{てま}について振り返^{かえ}りをした。主^{おも}な意見^{いけん}としては、何^{なに}か新^{あた}しいものをつくるというよりは、すでにある情報^{じょうほう}の提供^{ていきやう}にフォーカス^{ふおーかす}した方がよいのではないかということになった。産後^{さんご}支援^{しえん}制度^{せいど}に関しては、正^{ただ}しい場所^{ばしょ}とタイミ^{たいみ}ングで情報^{じょうほう}を伝^{つた}えることが大事^{だいじ}だと意見^{いけん}が出^でた。ほかには、

母子手帳におむつを替えられる場所や授乳室の情報などを載せられないかという意見も出た。次回は提言候補の絞り込みをする。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）では、次は実行委員会の報告だ。

まずは臨時会実行委員会の報告をお願いする。」

李歆歆副委員長「今日はオープン会議の広報について重点的に話をした。実行委員会のなかでは3つの提案が出た。1つ目は、代表者が自分のマンションやアパート、町内会などでチラシを掲示したらよいのではないかというものだ。2つ目は、各部会の提言に関連するところにチラシを配布したらよいのではないかというものだ。たとえば、高齢者の介護であれば介護施設などだ。3つ目は、ウェルカムセットの中にオープン会議の案内を入れたらよいのではないかというものだ。そのほかには、代表者が市民館の識字学級に行って広報することにした。事務局から連絡があると思うので、ぜひ積極的に参加してほしい。」

ペレーラ委員長「続いて、交流イベント実行委員会の報告をお願いする。」

ムハマド委員「今日はステージで何をやるのかということをはな合っ、各国のクイズをやることにした。それと、ブースでは代表者会議の広報をする。」

ペレーラ委員長「最後に、ニューズレター編集委員会の報告をお願いする。」

李晨委員「今日はNo. 77の記事と担当者について話し合った。9月に発行ということなので、秋の伝統的な行事やお祭りについて取り上げようということになり、野田さんがタイのベジタリアンフェスティバル、マイさんがメキシコの死者の日について紹介することになった。」

ペレーラ委員長「今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡はあるか。（なし）

それでは、これで今日の日程は終了だ。次回は6月18日、日曜日に国際交流センターで開催する。これで、2023年度第1回第2日の会議を終わりにする。」